

ヨルムンガンド ミリタリーコロニクル

「ヨルムンガンド」そのディープな
ミリタリーコンテンツを紐解く

jormungand military chronicle -vol.3-

第13・14話 ココ部隊



愛する国のために、正義のために殺戮を繰り返すヘックスとカットスロート。そして世界平和のため、争いのない世界のために武器を売り続けるココと彼女の私兵たち。どちらが本当の正義で悪だったのか…。

「ヨルムンガンド」の魅力の一つとして、作品に登場する銃器、そして装備品に関してのアリティイが挙げられます。当コーナー「ヨルムンガンド・ミリタリー・クロニクル」では、そういった本作に登場する銃器及び装備品の深さをピックアップし解説していきます。さて、今回から第二期に入ります。比較的装備品などの造詣がさらに深くなつてまいりますので、放送終了後も見返してみると面白い部分が盛り沢山かと思います。また私事ではあります BUT、筆者がサポートもさせていただいておりますので、ちょっと裏話的なものも取り上げられたら…なんて思っております。

原作では第二話で、少し大人びたヨナが崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

第17・18話 SR班

A.V.を着用しており、専用のバックパックを携行。銃器に関してはM4ディプロマットという極端にバレルを短くしたものの等を使用しています。ハンドガンについてはコルトガバメント、シグ226、ベレッタF92となっていますが、意外とこの各々のセレクトで彼らの古巣が分かるような気もしますね。

というのも、まああくまでも参考に…なのですが、米軍ではアサルトライフルは概ね共通なのですが、ハンドガンについては各部隊で違いがあります。ガバメントはもっぱら海兵隊。そしてデルタフォースでも愛用されています。シグ226は海軍特殊部隊SEALSと対テロ部隊デヴグル。ベレッタF92(M9)は陸軍や空軍で一般的に使われているもので、陸軍のグリーンベレー、空軍のパラレスキュー・ジャンパーといったエリート部隊がそうです。

「ヨルムンガンド」の魅力の一つとして、作品に登場する銃器、そして装備品に関してのアリティイが挙げられます。当コーナー「ヨルムンガンド・ミリタリー・クロニクル」では、そういった本作に登場する銃器及び装備品の深さをピックアップし解説していきます。さて、今回から第二期に入ります。比較的装備品などの造詣がさらに深くなつてまいりますので、放送終了後も見返してみると面白い部分が盛り沢山かと思います。また私事ではあります BUT、筆者がサポートもさせていただいておりますので、ちょっと裏話的なものも取り上げられたら…なんて思ております。

原作では第二話で、少し大人びたヨナが崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心

が崖に向かって自動小銃を放り投げる場面、この作品のある意味最も象徴的なシーンがアニメでは第二期の冒頭に使われています。物語ラストへ向かうヨナの心



第二期ではオープニングでも使われているアクアラインでの大迫力の銃撃戦。日本国内のシーンが殆どない本作なので、なんだかやっぱり嬉しいな。



実は右のカットスロートで、儀器が所有しているアーマーは珍品の一つ。瞬間に写らないショットで探してみてねっていう小ネタでした。

女性特殊部隊

ヘックスのエピソードでは彼女の過去を振り返る場面で、WW小隊というアメリカ軍による女性の特殊部隊創設設計画。そしてその初代メンバーエースとして彼女が参加していたと

いうシーンが描かれています。



愛する国のために、正義のために殺戮を繰り返すヘックスとカットスロート。そして世界平和のため、争いのない世界のために武器を売り続けるココと彼女の私兵たち。どちらが本当の正義で悪だったのか…。

次にエコ・プラハでの戦闘シーンですが、カットスロートの銃器は回想シーンと同じで、プライマリがM4ディプロマットを含めたM4カスタム。スナイパーライフルには308口径のセミオートで安定のSR25。装備品に関してはバラクレイド製のものを指定しましたが、特にハッキリ特定できるシーンはなかつたかなといつたところ。

そしてヘックスですが、ハンドガンはトーラスP.T.24/7。トーラスはブライフルのメーカーですが、アメリカの法執行機関向けに開発されたもので、P.T.24/7は24時間、週7日、常に市民の安全を守るという意味が込められているとか。もうここら辺がまさにヘックスらしいセレクト…と言わざるを得ません。

アサルトライフルはご存じSCAR-L。個人的には以前あまり好きではない

S.R.班はどちらかというとインテリジェンスチームといえるので、銃撃戦で真向勝負っていうのは不得意だった模様。

ヘックスのエピソードでは彼女の過去を振り返る場面で、WW小隊というアメリカ軍による女性の特殊部隊創設設計画。そしてその初代メンバーエースとして彼女が参加していたと

いうシーンが描かれています。

結局多くの脱落者と、女性の特殊作戦参画に後ろ向きであつた上層部によつてこのWW小隊の設立は白紙化してしまつたわけですが、これは実に先見の明であったと個人的に強く感じたエピソードでした。

というのもこれが描かれた数年後、実際にアメリカ軍ではC.S.T.(カルチュラル・サポート・チーム)といふ女性特殊部隊が設立されます。

して設立当初はやはり上層部で意見が二分し、一時は解体されるという流れさえあったのもWW小隊のバ

クグラウンドと酷似しています。

実はいきなりの戦死者が出たことでもチームは維持されています。性別格差のある中東では

情報収集力が期待以上の成果を上げているようです。

